

アイソスの 回文かるた

え

え

えいごくやく
やくごいえ



first message from ISOS

*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。



英語苦厄 訳語言え

「ISO 9001の原文の意味はこうなんですと言われても困ります。うちは英語ではなく、日本語訳のJISで審査を受けているのですから」

審査員に、このようなことをおっしゃる受審会社がたまにあるそうです。言いたくなる気持ちはわかります。受審側はたいていJISを読みながらシステムを構築していますし、審査員も日本語で審査をしています。お互いの理解は日本語で行われているのに、ある条文の意味の話になったとたん、「原文の意味は実はこうなんですよ」と審査員に言われると、受審側としては「そんなことを言われても・・・」となりますよね。

ですが、ISOの規格は英語で審議され、そこで生まれた規格の原文は英語です。ですから規格の意図を正確に知ろうと思うと、原文に当たらなくてはなりません。さらに、原文の規格を読みさえすれば、それで理解できるのかというと、そう簡単ではありません。やはり、なぜそういう用語が使われるようになったのか、そこへ至る議論の経緯も押さえておかななくてはなりません。しかし、そこまでできるのは、日本でもほんの一部のエキスパートの方々だけでしょう。

たとえば、ISO 9001:2000のキーワードである「顧客満足」という用語1つをとってみても、その日本語から日本人が懐くイメージと、規格作成に参加したISO/TC176の委員が懐いているイメージとは、たぶん大きく異なると思います。であれば、ISO 9001に出てくる「顧客満足」とは、このようなイメージで使用されているということを、公式文書として日本のTC176国内委員会を出していただくと、受審側も審査側も助かります。

本来なら、原文を読まなくても、日本語だけで規格の意図が明確に理解できることが理想なのです。そのためには、原文を翻訳するだけでなく、その訳語が日本語の一般的なイメージではなく、ISO特有のイメージをもって使用されていることを解説した公式文書が必要なのではないでしょうか。